

令和元年度 第1回 湯沢市総合振興計画審議会 議事録

- 1 日 時 令和元年9月19日(木) 18:00~18:55
- 2 会 場 湯沢市役所本庁舎2階 会議室25・26
- 3 出席委員 【出席10名】
(敬称略) 高嶋伸夫(ゆざわ小町商工会)、松田一彦(湯沢市観光物産協会)、
佐々木房子(こまち農業協同組合)、佐藤政弘(湯沢市雄勝郡医師会)、
中山孝子(湯沢市社会福祉協議会)、飯塚哲夫(湯沢地区自治協議会)、
戸部緑(雄勝野づくり連絡協議会)、佐藤久代(皆瀬地域自治組織地域づくり委員会)、
寺門敏子(NPO法人サポートセンタービーイング)、築瀬栄美子((同)トマトクリエイション)
- 【欠席6名】
阿部昭子(湯沢商工会議所)、佐藤愛子(湯沢青年会議所)、
後藤美喜子(湯沢市体育協会)、佐藤敬吉(湯沢7地区自治連絡協議会)、
遠藤幸作(稲川地域自治連絡協議会)、竹下有紀子(クラウドワーカー)
- 4 案 件 第2次湯沢市総合振興計画の進行状況について



案件での発言要旨

案件について

(事務局から資料について説明)

○委員

ふるさと納税の返礼品について、地域の特産品も良いが、地域課題解決型返礼品にもっと力を入れてはどうか。地元を離れた人が寄附したくなるような取組は、ふるさと納税の趣旨に合致していると思う。特に、雪下ろしは更なる需要が見込まれるため、もっと周知していくべきではないか。

- 市 ふるさと納税の返礼品について、本市では地域課題解決を図るためモノからコトへの検討を進め、雪下ろしのほか墓地清掃や家事代行、見守り訪問といったメニューを展開し、ニュース等に取り上げられるなど反響があった。雪下ろしについては、首都圏在住者が実家の雪下ろしを心配しているといった声を参考に返礼品として採用したが、昨年度の実施が5件にとどまっていることから、もっと周知を強化する必要があると感じている。
- 委員 建設業においても顧客の要望により、仕事の範囲が広がっていると感じている。そのくらい地域における課題は多くなっていると思うので、地域課題解決型返礼品の強化を進めてほしい。
- 委員 子育て支援について、主な取組に子育てクーポン券の交付とあるが、どのような内容か。
- 市 出産祝い品として、市内の商店等でミルクや子ども服などの購入時に利用可能なクーポン券を交付するものである。
- 委員 宿泊者数に関連して、農家の手伝いをするにより、宿泊代が無料になるような旅行の仕組みを新聞等で見たことがある。関係人口にも関連するが、そのような旅行者が情報発信することで、市の宣伝にもつながるため、本市でもこのような取組を検討してはどうか。
- 市 地域と旅行者をマッチングする民間事業者の存在は把握している。国のアンケートにおいて地方と関わりたいと思う若者が3割ほどいるという結果からも、このような取組への需要は高まっていると思う。本市としても関係人口に関連する取組の中で参考にしたい。
- 委員 婚姻数に関連して、委託による婚活イベントを3回実施したとあるが、どのくらいの参加者がいたか。
- 市 3回のイベントで男性18名、女性16名の合計34名の参加をいただいた。この中から成婚された方はいないが、カップルが誕生したという報告は受けている。
- 委員 市公式フェイスブックの平均リーチ数について、実績が下がっていると同時に、本市は高齢者が多いためSNSを活用する人が限られていることから、このKPIを成果としていくのは難しいのではないか。
- 市 一昨年からフェイスブック社のリーチ数をカウントする仕組みが変わり、リーチ数が激減したのが現状であるが、今後は本市を応援してくれるフォロワーの数に着目していきたい。また、フェイスブックは市外に向けた情報発信が中心になるため、フォロワーが市の情報を拡散することも考慮して情報発信の強化を図っていきたい。

○委員

以前、病院の受付において、診察が夕方になり帰りの交通手段が無くなり困っている高齢女性を見かけたことがある。これに関連して、将来の移動に不安を感じている人の割合について、平成 30 年度の達成率は 66%だが、高齢者等の移動に対する不安を取り除くため、早急に 100%にする取組が必要ではないか。

●市

日常生活の移動手段確保は本市の大きな課題である。公共交通は乗継などで使い勝手が悪いという声をいただいているほか、路線バスや乗合タクシーに係る市の財政負担や利用者減少など、様々な課題に対する取組を進めているが即効性が小さく苦慮している。今後は、他の自治体が行っている地域住民主体による運行形態などを参考に、公共交通の維持や利便性の向上を図るとともに、高齢者の増加に伴う免許返納への対策など、各方面から様々な意見を頂戴しながら取組を進めていきたい。

○委員

少子化などにより、どの業種でも人材確保に苦慮していると思うが、地元でどのような仕事があるのか知らない児童や生徒が多いのではないかと感じている。例えば、家を建てるのは大工だけと思われているが、実際は約 50 の業種が関わっており、地元にはそれら専門の業種が存在している。これらを小さい時から知る機会があれば、進路を決める参考になるとともに、ここで生活したい、一度地元を離れても帰って来たいという気持ちにつながるのではないか。地元の建設業協会では、県南の高校生を対象とした建設業体験や幼児向けの重機乗車体験などを実施しているが、市でもこのような取組が増えれば良いと思う。